

観終わった後、
なぜかわからないが泣きそうになった。
人々の昔からの営みの美しさ、はかなさ、
自然の偉大さ、厳しさ、美しさ。
なんかぐちゃぐちゃになって心に届いてきた。

40代男性（八百屋）

生協や地元直売所の産直の野菜や
食べものが今までと違って見える。
「ただの商品だった米や野菜に
目や口がついてしゃべり始める」
のは本当だった。X(旧 twitter) より

お百姓さんは、なぜこれほどまでに強くて賢いのだろう。
目の前の自然をくまなく観察し、自分の頭で思考し、先人たちの智慧と、
農家同士で得た情報を絶えず学びながら、自らの肉体を使って労作する。
太陽の光でピカピカに輝く彼らの表情を見ながら、農的営みは、
人間を最も人間たらしめるものだった。

瀬瀬あや（映画監督）

日本中の人に、今観てほしい映画です。
日本の農業を外から、自給率うんぬんとか、主義や思想で語るのではなく、
百姓がいつも何を考え何に挑んでいるのか、その内面だけを映し出し、
丁寧に編んだドキュメンタリーです。
僕がずっと心にしまってきた大切なものが、たくさん出てきます。

鳴谷幸彦さん（農家・新潟県）

